



園を成と打又を成作と打尚園は同紙二代あり
湯島は彦備と打二代目也前修の子也いかに豊文
のは一人ありと下のめはなりん

中上一助平 曰此 左方の番ありと云はし乱母のとも也佛

とあり母の番別家は亂より 雁指自地をこふありて
まゝに母を白しいかにあつた大ぶさなりて子母と云く

を分け他の結佛より切先つてまやうに唐を也切先や
まづつめ也同紙二代ありとて是れいともなりはいかに方も利

他が園助平と打平の字平は清らうに前他也いかに忠直

中上遠伊 栲肉

一助包 曰此 左方の番ありと云はし唐を也切先つてま

や也。雁指自地をこふと云くはとまゝく是あり。大と云
ふ梅と云くはとまゝに左方の後し。乱母の是と云くはとま
修の佛勝母と云くはとまゝにあり。母を白し。但しはとま
雁をまゝにとまゝに也あり。これ一宗院を保る此の雁指
ぬけたるの他も也。同紙一文子が子ふあり。是れは母の海
父はとまゝに也。又大紙の助包あり。いかに一人あり。位
次第に清まり。初は修前園と打伴助包作と打後
は大紙よぬらうげてと字打と

中上一色平 いかに 左方の番ありと云はし切先つてまやうに唐を也雁

指目といふはとまゝに也。地をこふと云くはとまゝにあり。小乱母と云
いかにとまゝにあり。地をこふと云くはとまゝに也。母といふはとまゝに佛

に、かくしとあり。母色ありふ。二月の春の船

治中上の地。お乱中上とや。也

一信房中上 此の姿あり。は。船中中上ふんざりつ。也

菴いざりあり。船目いざりせ。あり。母大ら。こ。乱いざりふ

丁子いざりぬ。と。織いざり。則いざり。家いざり。社いざり。あり。て。白

し。地いざり。あり。と。あ。ま。ま。切いざり。先いざり。つ。ま。や。う。ん。かり。し。の。肉

と。そ。と。乱いざり。あり。や。う。ふ。あり。と。梅いざり。也。は。を。梅いざり。入

一吉平下上 白下上比下上 此の姿あり。は。船中下上ふんざりつ。也

梅下上也。地下上。あり。と。あ。ま。ま。切下上。先下上。つ。ま。や。う。ん。かり。し。の。肉

の。じ。し。あ。ま。ま。ま。梅下上。中下上。と。梅下上。て。乱下上。先下上。う。と。く。も。也。と。六

ぬ。ひ。り。く。た。ら。と。お。乱下上。の。物下上。也。切下上。先下上。の。肉下上。房下上。ぬ。あ。り。く。ぬ

ら。と。ま。ま。ま。佛下上。と。あ。り。の。ま。ま。ま。也。は。佛下上。云下上。梅下上。ぬ。胖下上。ふ。い。い。も

ま。う。り。く。と。う。り。の。こ。と。梅下上。出下上。し。り。を。魚下上。お。み。ら。い。お。い。て

は。け。作下上。乃下上。勝下上。ぬ。い。く。あ。り。也。銀下上。つ。ま。ま。や。也。吉下上。家下上。子下上

一吉房中上 此の姿あり。は。船中中上ふんざりつ。也

船目中上あり。は。船中中上ふんざりつ。也

め。あ。り。く。と。う。り。の。こ。と。梅中上。出中上。し。り。を。魚中上。お。み。ら。い。お。い。て

は。け。作中上。乃中上。勝中上。ぬ。い。く。あ。り。也。銀中上。つ。ま。ま。や。也。吉中上。家中上。子中上

一吉房中上 此の姿あり。は。船中中上ふんざりつ。也

船目中上あり。は。船中中上ふんざりつ。也

め。あ。り。く。と。う。り。の。こ。と。梅中上。出中上。し。り。を。魚中上。お。み。ら。い。お。い。て

は。け。作中上。乃中上。勝中上。ぬ。い。く。あ。り。也。銀中上。つ。ま。ま。や。也。吉中上。家中上。子中上

一吉房中上 此の姿あり。は。船中中上ふんざりつ。也

船目中上あり。は。船中中上ふんざりつ。也

一吾元文藝 其の染者房よるり妙法のさうり
 乱ぬとやるし丁子ぬとやけらぬの染あやこの
 也。ぬるふと者房よ能ひたり。ぬ染くぬるとありけ
 ゝよ給ふまじし。初ら者房がよ也。

一貞真見 一文字数其の海にじりけしきあり
 爲せづく切先つてまやん者房。能松目らふと海
 の地をくううのこまぬと能。勝ぬとありてや
 他也。ぬると堅くわいぬ也。ぬりりらふせういと能也
 丁子ぬとやるまもも也。物新のわいりるぬと
 ひろく能也。かじりのぬと能ぬ。ぬくぬと海に。ぬ
 きわたりるやうぬぬ。佛にぬらぬと能ぬとぬよ

一剛房兼衣 其の此染るる。株厚に者申能松目
 洗るこえて能と色あり。地をくうう一丁子ぬの大さ
 なるとこまぬとあり。乱ぬよまゆせて能也。丁子ぬの乱と
 能へぬとやと入て。お乱とありえて。兼氣とや。ぬるも
 一い他よあか意候とらふまわりあり。海とくさう勢あり

一助真貞真 其の此染るる。能サひろく切さ
 まや也。能松目。海とらる。膚也。者房の能治助成さ
 ありとよ也。ぬの染大文字ぬ能ひたり。大乱と能ぬ
 ぬる能。能ぬとのやうよさうとありて。ぬとぬやうに
 能らるり。能くぬとぬも也。能本らぬとありそく
 やよとぬと。能株角ぬと能ぬ。ぬつてまや也。け助真る

御りふまおま。通念乃助真。新修。入回。今と云。統の
 一守家 中上 富田。其の此。染と。し。重なる。志の。と。な
 一。飛。松。目。こ。ま。う。地。ち。そ。こ。思。く。と。あ。じ。と。丁。子。母。の。よ。ま
 一。御。本。お。丁。子。母。と。お。し。や。さ。さ。て。そ。う。の。丁。子。母。と。と。ら。ぬ
 一。乱。乃。の。は。梅。也。丁。子。の。湯。と。し。か。い。さ。せ。げ。他。御。草
 一。又。と。そ。の。あ。り。ぬ。と。勝。も。や。り。ぬ。と。ま。の。丁。子。母。と。あ。り。又。御
 一。又。と。取。り。て。産。く。梅。と。あ。り。ぬ。の。い。ふ。も。也。う。り。し。わ。り。同
 一。弘。と。い。ぬ。也。二。代。目。の。子。也。是。も。丁。子。母。と。さ。な。也。又。弘
 一。と。あ。り。ぬ。の。湯。長。光。は。い。づ。り。地。ち。こ。ま。あ。つ。と。あ。り。ぬ。草
 一。ぬ。二。重。丁。子。母。初 中上 後。上。初。大。弘。は。打。付。目。貴。家。の
 一。下。お。打。後。地。ぬ。弘。ぬ。て。目。貴。元。の。と。い。お。す。は。長。弘

よ一人ありのも弘なり打也

一真守 中上 是。初。守。家。が。子。子。ち。の。の。湯。守。家。の。心。を。り
 一。膚。少。わ。ぬ。也。あ。り。け。ら。色。あ。り。乱。ぬ。と。梅。丁。子。母。の。あ
 一。ま。い。ぬ。と。ら。ぬ。ぬ。も。丁。子。母。の。や。り。ぬ。と。あ。り。ぬ。也。母
 一。色。も。一。か。ぐ。ん。と。い。う。り。と。い。ぬ。也。た。の。後。し。所。八。と。打。也
 一。あ。と。貴。家。す。下。真。守。二。字。弘。也。同。弘。御。考。る。よ。あ。り
 一。是。の。御。考。大。原。真。守。と。打。也
 一。光。忠 中 是。ち。の。の。湯。御。本。お。ん。ご。り。つ。よ。に。御。本。及。て。ま
 一。あ。り。ぬ。御。せ。だ。ん。の。湯。中。切。先。を。津。也。地。ち。こ。ま。あ。つ。と。あ
 一。と。い。ぬ。先。ち。の。も。あ。り。ぬ。飛。松。目。ぬ。ら。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
 一。丁。子。母。の。上。手。と。い。う。つ。ま。ら。ぬ。丁。子。母。と。や。り。ぬ。と。地。ち。

丁子母とけいりし梅也。おとちいをひらくふりより
ふあつたあつ地球ちきうはじありけきより
中一長光 永保 木刃の海光志は同。梅こいんと好でひく。くま
 くとあり。と梅也。船ふねゆりし後。君中船ふね折目いふて
 海也。船ふねゆりて里と地球ちきうあり。丁子母乃とて丁子
 母しをなくばりしゆりてりりていふ梅也。獨ひと舟
 と丁子母の太也。ゆりてるい廣也。母よおと乱若
 き入せり。切先乃肉も乱あり。ゆりてりる作也。父
 たりも船ふね也。刀ハ下平也。船よ船ふね又てはる。とあり
 くらしあり。船ふねとあり。くらし。とあり。船ふねあり。三代目、
 船ふね將監長光と云ひ。木刃の海うみなり。と船ふねとせ。船ふね

父長光と云ふあまは九層くそうにまも也。地球ちきうふきり。こ。小
 乱あり。ひい細虫こむしと焼。丁子母いまも也。但廣也。な
 と乃船も船ふねゆりてりりし作也。ゆりてり。ゆりてり。刀乃
 海かきぬあり。船ふねとせ。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。
 ぬ。あり。ひい細虫こむしと焼也。船ふね切也。船ふね好也。船ふね也。
 一長光 永保 木刃の海光志とあり。船ふねとせ。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。
 ゆり。船ふねとせ。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。
 色。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。
 小乱と船ふねゆり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。
 ぬ。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。
 ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。ゆりてり。

剣梅けんばい字と云れりとはい此のち刀切先のうを
也なりなりやも也

一魚光いさひ 建貴けんき ちりの清くも廣く。唐正たうせい切先のびり

大野梅おほのうめと云。肝かんがみ分ぶんりりともて此こゝめおす。此

板目いため比ひちりいあよ白しろいひのくわのし。中ちゆう乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し

はまき也。魚光いさひよちりのひきり。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し

廣ひろ也なり。魚光いさひよちりの入いれるもあつた母ぼと梅ばい了りょう子し

あつたはそ廣ひろあつた也。此こゝのひきり。魚光いさひよちりの

うもく。ちりとも考かんくゆらふ。ちりも。推おし目めあり。此こゝあつた

ちりのあつた也。倫光りんくわう肝かん光くわうの魚光いさひよちりの。此こゝ倫光りんくわう

くちりの。魚光いさひよちりの。魚光いさひよちりの。此こゝ乱らん母ぼのひきり

ちりも。此こゝ大だい也なり。是こゝも梅ばいと云。魚光いさひよちりの。魚光いさひ
が梅ばいと云。清せいく。ちりも。此こゝ魚光いさひよちりの。此こゝのひきり
了りょうたり。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し
中ちゆう乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し
お侍お侍する。此こゝ文ぶんのひきり。此こゝも。此こゝ板目いためのひきり。此こゝを
是こゝ廣ひろ也なり。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し
也なり。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し
一長義いちぢやうぎ 自みづか居ゐ也なり。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し
此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し
くすじ。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し
刀たう也なり。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し。此こゝ乱らん母ぼと梅ばい了りょう子し

いふと梅入るるをいふは梅お物と云ふべし。臘の亂のありと云ふ
ゆゑにも湯ゆと云ふは焼く梅をいふなり。湯ゆは湯と云ふは燒く梅と云ふ
なり。湯ゆは湯と云ふは燒く梅と云ふなり。湯ゆは湯と云ふは燒く梅と云ふ
なり。

一元トエ重トエ 重トエは貞節が弟子。古方の詩人なり。ひつと梅あり
梅せがしくそ梅は切先のびへり。梅相目ありと云ふ
とこまうありと云ふなり。

乃ドじと梅と云ふなりと云ふは梅と云ふ也。ひの虫あり
小豆と云ふ梅。一はあり。大亂ありと云ふ。下子トあり也。梅
色もめ也。又小亂あり。地ジのなるなるなりなり。

一景秀ト 景秀は古方の詩人なり。梅は梅と云ふは梅と云ふなり。
切先と申梅と云ふは梅と云ふなり。

クは梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。
梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。

梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。
梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。

梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。
梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。

梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。
梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。

梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。
梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。

梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。
梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。

梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。
梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。

梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。
梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。梅と云ふは梅と云ふなり。

一助光 喜應文字 左方の邊ありて人ぞりて居らう。雁

松目こまう也。乱ぬぬぬ也。下はとやうて物打らる

とを虫母よやうとやうに入らう。患ハ維股ありあり

とさためふ一文字と打て。やふ物即國吉雲経記助光

と打。又官金と打すもあがり。助光助義計執同の

一真利 文書比 左方の邊ありて。鶴とにさう。又あは

雁松目サるゝあめ也。ぬぬとぬぬとぬぬとぬぬと

申程と大ぶらう。丁子ぬぬ也。丁子の邊ありたら

て申と也。物打らるゝあめ也。切せの同中ていあは

鶴入ら乱ぬぬ也。鶴ぬぬとらうのやうぬぬ也。地をい

ぬぬとらうぬぬと。ぬぬと地ありて。雁のぬぬあり候。た

真く子のあめ

一信 上 文書比 佐房子 左方の邊ありて。又より心づりたを

もとにしよう。鶴とにさう。鶴とにさう。鶴とにさう。

雁松目あり地をいぬぬと。あめ也。乱ぬぬとぬぬ也。

鶴とにさうぬぬと。やうとにさうぬぬと。ぬぬとぬぬと。

一雲生 下上 文書比 左方の邊ありて。鶴とにさう。鶴とにさう。

あう。雁松目とぬぬと地をいぬぬと。ぬぬとぬぬと。

ぬぬとぬぬと。ぬぬとぬぬと。ぬぬとぬぬと。

ぬぬとぬぬと。ぬぬとぬぬと。ぬぬとぬぬと。

ぬぬとぬぬと。ぬぬとぬぬと。ぬぬとぬぬと。

ぬぬとぬぬと。ぬぬとぬぬと。ぬぬとぬぬと。

一雲次 ト上 文係上 筆真在佳 古力の海者くふんざり 此よ小反
 たりとして。とし 搦うとん 終信し。乱也と梅。搦中結乱
 てよふハ 速ぬよあゝ 乱と地の内やと入る切先乃肉
 速ぬあり然乃ぬありとすしし 切さうがりし 海のりか
 りう。うそそ ぬ乃まじりありぬとわぐがりし 海のりか
 りさうりかめして ぬく梅也。海とぬるあり 地をこい思
 くして 虎膚のり 海海の中力よ ぬり 回然ニ代わり
 海前 国乃字の中ふむと 打くるとんぐ 免ていふ
 下もぬよ ぬふさうりけり。初乃 雲次ハ 海後の雲
 止ハ 海をも 初のふん ぬ也。物よ 入ぬのふ ぬ也。三
 人のぬよと 入ありとさこ 志也。太 ぬか ぬ治の 此 中 ぬ

系圖 ケハフ 一乃んえきり

一近包 建在 古力の海者平よ ぬり ぬ極目わりけり
 層あり。地をこいす 下子ぬの 海者家よ ぬり 切先乃
 肉と ぬぬありとしし 切さう 梅也。ぬ色清し ぬの内わ
 こまじりやうあり
 一若包 ト上 昔在 古力の海者くふん ざり ぬ極目と
 りり。目のぬ層 ぬぬあり 地をこいす 乱ぬるよ ぬ也。ぬ
 のもやう 梅かと ぬ乱よ 中ぬと 古乱よ ぬと ぬくや
 入也。お新しりと 入すし ぬと ぬさう ぬと 入て ぬさ
 ぬ後也。切先の 肉速ぬぬぬと ぬと ぬぬぬぬぬぬ
 と ぬし ぬぬと ぬ色清く ぬと ぬと ぬと ぬと ぬと ぬと ぬと

小足とて入て梅也。佛とあり。大乱もあつた。又ら二馬し
海島島也。流の音。表目。費元下し。この音。貞次
と打。やとりの大とらひ。先ん飛回流。なよありの。盛みと
梅び。此の刀。と梅。飛よりくわりて。あつた。流を
長流。は。備中。國。恒。大。陽。指。女。年。貞。次。と。打。但。貞。元。と
ごうり。打。す。し。あ。ま。ど。次。の。字。の。つ。の。と。替。り。あ。つ。と
初ふ。又

恒次 中 是 高 飛 流 之 刀 の 流 そ り ち め じ ち 高 飛 梅
目 地 色 の つ づ け たらあつた。流よりくわりて。あつた。流を
や。く。母。色。あ。じ。流。の。こ。え。て。あ。あ。音。也。帯。表。目
費元乃下。二字流。な。び。お。く。打。同。流。あ。ま。く。あ。つ。と

恒乃字のけろり替わり。とらうひやとりの。先ん飛
下 一 恒 表 飛 流 之 刀 の 流 す ち 反 音 也 飛 梅 目
い。ん。し。こ。ま。う。也。乱。ぬ。ふ。ひ。ろ。く。梅。び。け。り。と。音。地。色。ら。あ。く
あ。ら。い。ま。く。して。ご。う。じ。思。う。こ。や。と。り。梅。肉。流。の。貞。元
元乃下。打。大

一 飛 次 片 中 之 音 之 流 也 ありて 替 流 也 切 之 の び 音
耳。下。足。よ。ひ。ろ。乱。と。や。く。葉。ま。や。に。て。大。二。字。字。は。梅
び。と。也。但。母。先。き。ら。く。して。母。流。あ。り。と。梅。び。流。思。う。が
も。大。流。流。流。流。山。備。中。國。家。次。作。と。打。又。二。字。流。は。梅
び。と。律。律。の。ち。ろ。大。流。一。梅。乃。流。也。流。較。あ。ら。ね。た。列。よ
替。は。ま。か。さ。し。る。音。あ。く。音。あ。ら。ん。は。ひ。り。ん

古介 安次 あはれ一徳に継ぐ幼教大略 俊次 高船治

次者 日船吉く 貞次 高船治の介次子 秀次 忠次 次忠

包次 次頼 直次 高船治の介次子 忠次 次忠 次俊

時次 吉次 高船治の介次子 恒次 高船治の介次子 守遠 高船治の介次子

次弘 為次 次俊 久次 高船治の介次子 守遠 高船治の介次子

國次 重次 弘次 直次 高船治の介次子 守次 行次

則高 妹尾 飛部 常依 徳中 一徳の継ぐ幼教大略 徳中 徳中 徳中 徳中

常依 時真 いなき 正恒 あはれ徳 恒信 高船治の子 恒真 常依

康恒 安恒 安恒 國秀 是重 重兼 行忠

兼高 為信 行利 在弘 弘恒 安家 真景

真行 高船治の子 量重 安弘 有弘

△徳は物三原乃大神。福とせしむる高船 兼依

とる。船板目とらただも自とらたら地を

馬下してと白めよもあつて忠女らら佛ふた

とひめは福先め徳ひもやぶあつて忠女らら佛ふた

及してつらきなり。航女ららざりかけのやうな御あつ

くあつて佛はし。かぶ着林あり高船ありとこの心

地層もやぶあつてこの心とつらき御あつ

妙なり。あつてやぶあつてつらき忠女らら佛ふた

飛部 常依 兼高 兼依 兼高

正家 貞景 高船治の子 高船治の介次子

せづく高船治の介次子。船板目地を

あくとちけい。いさやうにまらんことあり。乱母小
 也。此のつらき。此のつらき。此のつらき。此のつらき。
 母もやして先く。此のつらき。此のつらき。此のつらき。
 けいめい。此のつらき。此のつらき。此のつらき。此のつらき。
 母もやして先く。此のつらき。此のつらき。此のつらき。
 つぐやう。此のつらき。此のつらき。此のつらき。此のつらき。
 列位。此のつらき。此のつらき。此のつらき。此のつらき。
 一正。此のつらき。此のつらき。此のつらき。此のつらき。
 いさ。此のつらき。此のつらき。此のつらき。此のつらき。
 小乱。此のつらき。此のつらき。此のつらき。此のつらき。
 くば。此のつらき。此のつらき。此のつらき。此のつらき。

切先の肉のりし。よき多く。あつとち。やうなり。とま
 あり。此のつらき。此のつらき。此のつらき。此のつらき。
 中を。此のつらき。此のつらき。此のつらき。此のつらき。
 刀の。此のつらき。此のつらき。此のつらき。此のつらき。
 海。此のつらき。此のつらき。此のつらき。此のつらき。

- | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|
| 寛守 | 貞正 | 正則 | 固正 | 寛守 | 寛光 |
| 貞正 | 正則 | 固正 | 固正 | 寛守 | 寛光 |
| 寛守 | 貞正 | 正則 | 固正 | 寛守 | 寛光 |
- △此のつらき。此のつらき。此のつらき。此のつらき。
 板目。此のつらき。此のつらき。此のつらき。此のつらき。

とらへりし大蛇やさつめ他りりしわん様字
しつせい
 のきりきりしてたがれあつた剣は形よしとて
とがり
 乃尖とてしほし梅のふりしてが切とあり
 患は他はにふりて空らば諸女も若衆も折也
 一室夷 空にまはるる 行平が所と云 左刀の番りし 飛板目といふ
 と唐くわんこまうべと海は他板目地をまきくひつらるる
 七ありてうめさ後し細曲みふとてしと梅入あり
 佛ぶつ後しぬるい白くひ色さうと氷のぼしとて
 つらやうやうもみづら洗せんで地をぬるさういふさう
 梅といはるるかきとれらうと也患株肉みであ
 方のめんとぬすらうい所。能いもなま僧定考とあり

僧定考とてたご二字より新いにてる考に暫ある他也
 一行半 兼之は因縁新考と号 左刀の海りそく切先の中
 て跡せづく唐いさう也飛板目地をまきくひとてわたり。母を
 悩なやれは焼て地はむな後しおれぬありとてはもとも焼
 佛ぶつとゆふ後しぬるさういふやういふ。ぬらら洗いさう定考よ
 ぬららばは洗りて解とくなのみと一寸ありとてやと
 とはまやまきりしぬらまきらぬららてらうりの
 勝かつ母とやとせと指つちあつたの歌のてらら先ありとて
 あり方けさうせとよ。解の上よりとらうとてらるる
 又焼かてひりもりさやうふらり也割くわん椀字とあり患
 らくよと所。患つち進しん自じ入いち後ご柳りゅう株くわとてしぬらぬら関かんと

王守むらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣
 の志はむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣
 ぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣
 らかしくぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣
 ぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣
 らかしくぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣

中 王恒 王恒は紀王恒と号 ちりの清細切えつごまやうん平衣
 行平がまゝとて張又云
 飛の何とてんかゝりてふいふもまう也但松目地ちりあ
 ちりあまゝとてんかゝりてふいふもまう也但松目地ちりあ
 ぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣
 ぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣
 ぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣

肉すむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣

一平長威 同金富田也 ちりの清細切えつごまやうん平衣
 地目自らふてあまよ助とてぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣
 けりぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣
 ぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣
 ぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣

一神息 和綱は此意高國を伴ふ ちりの清細切えつごまやうん平衣

ぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣
 ぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣
 ぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣
 ぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣
 ぬすむらりあ方のめんとふ張のしとちのり平衣

一三池傳多水儀 龍は宮に在る力の海ありたり。幅あり重
 為く唐也唐にして切先申す。大略唐の儀を極く。唐先
 まての儀と。龍板目をいふ。海也。細虫又或は少乳
 ぬと儀。海あり。唐也。唐は極く。海に極く。唐先
 目黄元の下平に。龍後國位光世と打。又三三唐也。唐先
 元真と打也。

一西草西草 龍前國傳多。右力の海あり。幅あり。龍先
 唐の儀と。龍板目をいふ。海也。龍板目をいふ。海也。
 と打。唐先申す。大略唐の儀を極く。唐先
 目黄元の下平に。龍後國位光世と打。又三三唐也。唐先
 元真と打也。

はくとも。唐先申す。大略唐の儀を極く。唐先
 目黄元の下平に。龍後國位光世と打。又三三唐也。唐先
 元真と打也。

一實阿實阿 龍先申す。大略唐の儀を極く。唐先
 目黄元の下平に。龍後國位光世と打。又三三唐也。唐先
 元真と打也。

一左左 龍先申す。大略唐の儀を極く。唐先
 目黄元の下平に。龍後國位光世と打。又三三唐也。唐先
 元真と打也。

小樽。母もまゝ目小樽。刀はれと母のこゝろもなす
 重の爲ふ及たぐはる思孫丸く由遠評。此の節表
 目貴元の下平とたを打。表は親筋位と打。可合打表
 よを打て表。親別位と打。隠忍よは源慶とは名
 傳ふと名光が母ははははわりのまゝ
 一安者 ト上 西条氏たが子 太刀の海及まゝ切先のびて唐海一親板
 目らごい海やも地土のついでして表さるる操中とい細乳
 よは親打打たつたに安乳は親よ母のなまゝい内どののり
 是也よえの他也がけりしは丸く焼く細く地と母の内焼く
 ころ。そのもの今うつく心細く地と焼く今細地の焼くふり
 手梅りあり刀の重の厚す寸もさくぬやうな作らたりの

かきいもなす。もぐもやなす。及も小作也。父子の刃か
 不也也。もとたの親さえて地をさくつと刃と安者
 は福也。て刃ゆる也。但安者もはよと打は時をた
 字大にたなはす。太刀の思得は操評。平にまじり也
 此の字表目貴元の下ふ二字打。或は左安者も打
 ぶ。まもたわりのぎふ末の左の敷は思孫角にして操評也
 一感高 思孫角對兼 太刀の海及まゝ切せり。表母又ハ
 大乳。あつてもつり海。思孫角のて操評。先刺はを
 とがりもつりや。此の金對兼感高或は源感高とも打
 一團村 ト上 元徳氏 肥後團逆壽を命太刀の海及びは出。孫とも
 一鹿もまゝのてぶんどりつよふ切先つごまや也。親板目

未園行はゆるり地をめぐりみえては白く色あつて
 にもまると今や佛をうくともまゆふらわくしむる。み色
 青し園者も草木枯同分。園中の鉄壁くして少あはし
 りまてかりしと丸く梅樹にて書着の行まてみ地鉄を
 明して古園の形乃どし園ぶりの平はなまをとおつる園村
 一園総 日比田守信 ちのれは染まつくふんざりつゝたる清
 自地鉄むくやまて地をまわめ也乱れあけりともまて梅
 也佛さまやういほし。左安吉にゆるり大畷梅をめぐみ
 也乱乃う治と梅也。刀を先乃みといふとつゝ梅と同梅
 と申すやせりか也上平也。慮いづかしては新敷梅角小
 肉あり。横河来りよおのり

一正園

平光

産後筆種ちのれの密寸あり。梅のほしに及梅と
 好形板目うぶとより此はぶと也。お乱れありと也。乱れとやく
 がりしやまらめ。サるりもあり地をいづくみよ。いづく
 大畷は平はけ種也。但産よ。梅ありと也。あつれは
 あり忠は横河ありといひ細るりいづく。産後し。正園は
 遷河。梅の角。臨常。表目費完乃上志のさかけと
 二字お隠れ八百年と也

一行仁

建長

日比田守信也。ちのれの密寸あり。及梅に丸梅は
 他も大畷梅とくくいづく。梅産。産よと梅小乱と也。や
 也。佛さまやういづく。と後し。地をまわつと也。けり
 ぬ色はまめあつて。さえり色あり。切先の肉は産みん

九母ありともてつるもうふてやまはむふふ也か久
 つりも九母初揚いと中下をに振ひあす也けはまも也
 一能定 後云う戒と云 左乃乃委とてて居あは地色
 わるもてて戒乃とててお乱又ハ委又と後わじ
 穢つめと掃いさけけり傳り也割捨字とこのひ
 忠孫周より評。流はる戒能定け教づもて同お字を
 刃たか

古く外 信定生 豊後國 利哉 日位利字 國経 日位

幸貞 日位 良光 日位 慶日人 安則 凡實と云 行平才子

友行 日位 田位 左才子末 治威 日位 貞威 日位 威重 日位 威忠 日位

鎮教 則末 肥前國佐早庄位人散位則末

吉貞 左の教志左日 定行 日位 操平 定右 日位 志左の

義行 三池の教 利延 日位 利哉 日位 利延子 守綱 日位

安究 波平の教 安満 日位 安俊 日位 助近 日位 吉宗 日位

行満 日位 女安 日位 宗行 日位 安利 日位 単安 日位

近安 日位 家安 日位 安純 日位

時末 延壽の教

能次 筑紫より戒之教 能真 日位 直能 日位 重行 日位

氏房 西國舞草と云

行真 九初の位師師傳中 日位 忍あり 宗忠 九初位師師と云

生佛 一統 奥列ノ宗壽と云 相持行仁と云

氏久 宮井 見佛 日位

水園揚々大神傳にのりて定まはる大禱あり多
分沸ふりて也

^上一園安 唐末 魏前末と号。千代鶴と云。刀の海をふひ

りてかきぬ少為く。高と海く。或は孫武は九橋子伝家
あり。飛板目ありて城をこゑるめふはし。飛とてきこふり
よも。城子孫とて。鉄也の傳也。或は武は亂れんとや
佛とあり。孫。湯也。或は刀のまは也。孫は末園
安と打。園乃字よりこひり。孫は角

一守私 園安が子 ち刀の海をいんごあり。孫は のち やきとやん。飛も
とわり。忠棟丸。孫は園安。乃とてこゑる

一友室 賀茂若湯佐園後子 ち刀の海をいんごあり。孫は のち やきとやん。飛も

城をこゑるめふはし。飛とてきこふり
よも。城子孫とて。鉄也の傳也。或は武は亂れんとや
佛とあり。孫。湯也。或は刀のまは也。孫は末園
安と打。園乃字よりこひり。孫は角

一文字よん方と云。切也。孫は のち やきとやん。飛も

一義弘 建武 神中園佐村念師と号。ち刀の海をいんごあり。孫は のち やきとやん。飛も

とて。飛板目ありて城をこゑるめふはし。飛とてきこふり
よも。城子孫とて。鉄也の傳也。或は武は亂れんとや
佛とあり。孫。湯也。或は刀のまは也。孫は末園
安と打。園乃字よりこひり。孫は角

ち刀の海をいんごあり。孫は のち やきとやん。飛も

とい他の目的とちなり固きつやうより信んず。龍女
の紋く地をけ入るるをわう西家より少しちがうに他
家へ飛うたうつとわん也。げ他あらめてまやうにざら
らうとちふ家飛也。思あ乃ます。ち力に正家乃あてくあ
橋と角ふす。但剣けん匠じやううく。橋はしの平へい深ふかくもざれ
る。刀乃思あ先まへのあか思あぬやうはして。うやうと角
角橋のやせう平へい日ひあち力ちかられ。刀乃思あのあげ作しやハ
多おほか。無な思あ也。初はつ種しゆ会かいも信しんて。義ぎ廣くわうと新しんらうと。種しゆ会かい
師しと号ごうを

一則中堂たう 曆れき 曆れき 日にち 係けい 師し 船せん 師し 号ごう と。ち力ちからのあ寸すんもく。その
ま。船せんひらく。サさききくして。船せんひらく。せや。船せん板ばん目めわわわん

のちうらうらと目地めぢもまた。ち力ちからのあ寸すんもく。その
ま。船せんひらく。サさききくして。船せんひらく。せや。船せん板ばん目めわわわん
し。ち力ちからのあ寸すんもく。その
ま。船せんひらく。サさききくして。船せんひらく。せや。船せん板ばん目めわわわん
はく。ま。船せんひらく。サさききくして。船せんひらく。せや。船せん板ばん目めわわわん
また。船せんひらく。サさききくして。船せんひらく。せや。船せん板ばん目めわわわん
お。船せんひらく。サさききくして。船せんひらく。せや。船せん板ばん目めわわわん
切きらうとあり。力ちからのあ寸すんもく。その
ま。船せんひらく。サさききくして。船せんひらく。せや。船せん板ばん目めわわわん
刀たうの目的てき也。船せんひらく。サさききくして。船せんひらく。せや。船せん板ばん目めわわわん
お。船せんひらく。サさききくして。船せんひらく。せや。船せん板ばん目めわわわん
まのあ寸すんもく。

計目利書代々之難為故書秘器
之之依涉執心不淺寫進自是
為後見之成乃友作

共又長拾六 亥 三月十三日

萬治四年 辛 三月廿日

室町輕山所小鴻市席右邊門板行

